

わかくさ

第20号

発行 秋田市少年指導センター

〒010-8506 秋田市東通仲町4番1号 電話 018(884)3869

(秋田拠点センターアルヴェ5F 子ども未来センター内)

編集 秋田市少年指導委員 広報部会

会うことの大切さ

秋田市少年指導センター

所長 伊藤 和則



最近または暫く、会えていない人や声を聞けていない人はいますか。

私のことでお話ししますと、この数年で同世代の友人、知人が2人亡くなりました。社会人になってからで数える、4人です。近くにいるのに自然と会ったり電話することがなくなったり、気にはなっている近況を確認することもしないまま時間が過ぎてしまっていたり、という中でのことでした。

ある日突然、亡くなった知らせを聞いて愕然とし、何故今まで話さない(会わない)でしまったのか、何故知らないままにしてきてしまったのか、自分に対する失望、取り返しのつかないことへの悲しみと激しい後悔を覚えました。友人のことは、今も思わない日はありません。

コロナ禍です。多くの友人や知人と距離ができてしまいました。本当は自分が面倒になったからなのに、SNS等の便利さを理由に年賀状を書かなくなったり、数年になります。SNS等は本来に便利で使いやすいのですが、実際に会うこと、声を聞くことや、その人が書いた文字を読むことで感じる安心感には、やはり、かなわないような気がします。

コロナ禍が明け、人と人との関係性が回復しつつある今こそ、人とのつながりの中で、自分が出来ない理由を付けて遠ざけてきたことをリセットして、自分の大切な人たちとつながり直し、会って話したいと思います。

最後に、少年指導委員の皆様におかれましては、日頃から、地域の子どもの安全と健全な成長を間近で見守りいただき、深く感謝申し上げます。今後とも引き続き、お力添えを賜りますようお願いいたします。

令和5年度

秋田市少年指導センターの活動

新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことで、今年度の当センターの活動は、7月に予定されていた「青少年育成団体情報交換会」が、大雨被害の影響で残念ながら急きよ中止となったほかは、計画どおり順調に実施することができました。

主な事業としては、運営協議会と地区代表者会議を年2回開催し、7月初旬には「社会を明るくする運動」のキャンペーン活動として、保護司の皆様と一緒に各サービスタワーを訪問しました。また、10月には、アルヴェの多目的ホールで、「少年指導委員研修会」を開催し、秋田東警察署の交通係長である安田秀樹氏から「新しい道路交通法について」と題した講演をしていただきました。

各地区でも総会や地区巡回を計画どおり実施した地区が多く、コロナ以前の活動に戻っています。さらに、例年開催している土崎・北部地区に加え、河辺・雄和地区で地区研修会が復活し、他地区との連携も深まりました。

来年度は、指導委員の委嘱替えとなりますが、変わらぬご協力をよろしくお願いいたします。



第1回代表者会議



東部地区の花見巡回

令和5年度市の記念日 式典における一般表彰

7月12日(水)、あきた芸術劇場ミルハス中ホールにおいて、市の記念日式典が開催され、秋田市長から、永年にわたり少年指導委員としてご尽力いただいた13名の方々へ表彰状が贈呈されました。

- (中央第二) 菊地峯生 倉嶋志津子
小山田公子
- (土崎地区) 鎌田栄子 安井 緑
- (西部地区) 今野洋子
- (東部地区) 中村伸子 小野秀悦 佐藤 守
- (南部地区) 佐々木寿子
- (北部地区) 安田道子
- (河辺地区) 加賀谷匡
- (雄和地区) 松山順子



巡回口誌から

●桜の花が散り始めた中、新1年生の黄色の帽子姿が何ともかわいらしかったが、緊張した様子で親に付き添ってもらう子も見受けられました。不安そうではあったが、地域の目として、できる限り見守り続けたいと思います。

(中央第二・4月11日・朝のあいさつ運動)

●フロンテ4Fゲームセンターで高校生や専門学校生らしきグループが、ゲームやプリクラをしていましたので、声かけをしました。皆さん、気持ちの良い返事をしてくれました。

(定例巡回・7月14日・秋田駅前周辺)

学校の特色ある健全育成活動

ふれあい 挑戦 生命(いのち)

秋田市立八橋小学校

校長 黒沢 淳



創立50周年を迎えた本校は、児童会スローガン「仲間と笑顔で かけ出そう」すてきな未来へ「八橋っ子」のもと、自分たちの学校の50年の歴史と伝統、そして地域に支えられ、地域とともに歩んでいる学校であることを実感し、新しい未来を創る様々な活動に取り組んでいます。

特色のある健全育成活動として「八橋花まる見守り隊」との出会いの会があります。交通量の多い八橋地区は、見守り隊の存在は欠かすことができません。見守り隊の皆さんと、全校児童が顔を合わせ、感謝の気持ちを伝える会は、心と心をつなぐ大切なものです。また、会の後にはPTA会長を交え情報交換会を実施し、地域の状況や子どもたちの実態について情報を共有しています。

他にも、子どもたちの生命を守るための活動として、地域の自動車学校の協力を得ての交通安全教室があります。自動車学校の教習コースを使用して、低学年児童は歩行訓練を行い、中学年児童は自転車の乗り方訓練を行っています。自動車学校の教員の指導を受けることで、より実践的な交通安全教室を行うことができます。

本校は、今後も地域の方々の協力を得ながら、子どもたちの安全を守る学校であり続けたいと考えています。



『チーム飯南』ではぐくむ

秋田市立飯島南小学校

教頭 安田 知明



本校は、今年度創立38年目を迎えました。昨年、上新城小が統合し、新たな飯島南小としてスタートしました。学校教育目標「夢をもち、ひと輝く明るくい子どもの育成」のもと、健やかな子どもたちの育成に励んでいます。その中でも本校の特色ある活動として、三つの実践を紹介します。

一つ目は、「ドリウムタイム活動」です。花いっぱい学校になるよう、全校縦割り班で、一人一苗のペゴニアの花を育てます。プランターへの移植、日々の水やりを通して、上級生が下級生に優しく接する姿が見られました。また、六年生が企画したゲームでの交流場面もあり、温かい雰囲気となりました。

二つ目は、「音楽集会」です。3年ぶりに復活し、子どもたちの思いあふれる歌声が体育館中に響き渡り、各学年の発表を拍手でたたえあげました。

三つ目は、新たな教育資源の活用です。統合を機に、上新城地区で長年実施のヤマメの稚魚放流に参加したり、お寺で座禅体験をしたりしました。子どもたちは地域の方々とのふれ合いを通して、自然や文化の大切さを学ぶ機会となりました。

これからも、学校・地域が『チーム飯南』として協力し合い、夢をもち続け、笑顔あふれる子どもを育てていきたいと思っています。





日々に新たに助け合い 夢に向かって一歩前進

秋田市立日新小学校
教頭 佐佐木 摩紀子

本校は今年、創立149周年、校舎は築50年の伝統と歴史ある学校です。

学区には、栗田神社、日吉神社、大森山動物園、秋田公立美術大学・附属高等学院、新屋図書館、新屋ガラス工房、葉隠れ墓園などがあり、多数の財産に恵まれた町です。

今年度は、コロナが5類に変わり、久しぶりに、神社のお祭りをはじめとする地域交流が復活しました。地域の大人が気持ちを高め、一丸となって「新屋の町」を活性化させていく姿、うれしそうな大人の姿をお手本に、笑顔を浮かべ生き生きと参加する子どもの姿が見られました。

学校としては、徒歩で片道40分程度かかる大森山動物園に出かけ、動物園職員の皆様の協力を得ながら「わくわくフェスタ」を実施しました。異学年交流とふるさと教育を目的としたこの行事では、上学年が下学年に励まし声をかけたり、下学年は憧れの気持ちを示したりと、地域素材を生かしてねらいを達成することができました。

タイトルの「日々に新たに助け合い 夢に向かって一歩前進」は、今年度の子どもたちが考えた児童会スローガンです。日新小学校は、地域や人とのつながりを大切にしなが、夢に向かって一歩ずつ前進しているところ。



絆をむすび 夢にはばたく 緑と太陽の広小

秋田市立広面小学校
教頭 柿崎 真

本校は、明治7年に創立され、今年度149年目を迎えました。また、同窓会の組織もあり、9月には設立100周年記念式典と懇親会も行いました。地域と共に歩んできた歴史と伝統のある学校です。

新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類になった5月、家族の参観人数に制限を設けず、学校運営協議会委員の方々もご招待して、下学年と上学年の二部に分けて大運動会を開催しました。

今年度の運動会の一見所は、何といても2年生以上が参加する「応援合戦」。4年ぶりの実施でした。6年生の子どもたちは、自分たちが2年生のときに経験してはいるものの、どのように応援を創り上げるか、大きな不安の中で準備を始めました。

本番の「応援合戦」は素晴らしいものでした。6年生が引っ張り、5年生が支え、2年生、3年生、4年生は全力で行って行く。それぞれの役割を精一杯果たした見事な応援でした。上級生の姿を真剣な表情で見ていた1年生からは大きな拍手が、参観していた家族や地域の方からは「とても感動しました、ありがとうございます」という言葉をたくさんいただきました。

学校でなければ体験できないことがあり、私たちがコロナ禍を経験したこと、やっばり子どもたちのいる学校はいいなという思いを強くしています。

令和7年度には太平小学校、下北手小学校と統合し、新しい広面小学校がスタートします。これからは子ども同士士の絆を結び、家族や地域の方々と手を携えて歩みを進めていきます。



根確かなれば 花かならず開く

秋田市立秋田北中学校
教頭 土肥 孝生

本校は丘の上に立ち、教室から地域を広く見渡せる眺望のよさと、光と風が通り抜ける明るくオープンな環境が特徴の校舎です。昨年度、創立60周年記念式典をはじめとする様々な関連行事を実施し、今年度70周年に向けて新たに歩み出しました。

特色ある活動として、生徒会が考案した北中式あいさつ「IDDN」を意識した挨拶運動が挙げられます。「IDDN」とは、I（いつでも）、D（どこでも）、D（誰にでも）、N（何度でも）の頭文字をとったもので、「先言後礼」と共に、生徒会執行部が中心となって呼びかけを行い、明るく活気ある挨拶を目指しています。

また、地域と関わる活動にも力を入れており、近隣の駅や出身小学校に出向いての挨拶運動や、地域施設を訪問して清掃を行う地域貢献活動、小泉瀉公園や新城川周辺のクリーンアップなどのボランティア活動にも積極的に取り組んでいます。

その他にも、全校生徒で学校林「すなもりん」（昨年度全校投票で命名した愛称）に出かけ、地域の方にご指導いただきながら、枯死した樹木の伐採や落ち葉かきなどの活動を毎年行っています。毎年1年生は、地域の方を講師に迎え、地域の歴史や文化、自然、そして防砂林の果たす役割について話を聞く講話を事前に行い、活動の目的や意義を確認してから作業に入るようになっています。

生徒一人一人が様々な行事や体験活動、地域の恵まれた「人・もの・こと」との関わりを通して、豊かな人間性の根を広げ「根確かなれば花かならず開く」の校訓の具現化に向けて、教職員がチームとなつて子どもたちの健全育成に努めていきたいと思ひます。



令和5年度 少年指導委員研修会の報告

10月25日(水)、秋田拠点センターアルヴェ2階多目的ホールにおいて、令和5年度秋田市少年指導委員研修会が行われました。

秋田東警察署交通課交通係長の安田秀樹氏より、「新しい道路交通法について」と題して講演をしていただきました。前半は、幼児や児童に対する交通安全や車を運転する際の歩行者優先についてのDVDを視聴し、「子どもには言葉だけで伝えるのではなく、実際にやってみせることが大事」ということを学びました。後半は、「電動キックボードは自賠責に加入する必要があるが、道路交通法も守らなければならず、車両と同じ扱いになること」、「自転車に乗るときはヘルメット着用が努力義務となったこと」、「自転車事故の約6割が頭部に致命傷を負っており、ヘルメット着用が重要であること」とについてお話ししていただきました。

また、少年指導委員が巡回する際は「止めようとして自転車の



講演くださる安田秀樹氏

前に飛び出したり、目の前に立ちふさがったりはしないようにするとともに、危険を回避するために相手の肩に手をかけることはせず、まずは自分の身の安全を守りながら指導をしてほしい」とお話しくださり、少年指導委員が活動するために必要な知識を学ぶことができ、たいへん有意義な研修会となりました。



視聴したDVDの様子

(事務局 高橋茉莉)

指導委員の皆様へ

○定例巡回コースに、今までのA・Bコースのほかに、アトリオンまでのCコースを加えましたので、よろしくお願います。

○巡回や会議等を欠席する際は必ずご連絡ください。

○昨年7月の大雨被害に遭われた方々には、心からお見舞いを申し上げるとともに、一日も早く復旧が叶うことを願っております。

令和5年度のあゆみ

4月	特別巡回(春)
6月	第1回少年指導センター運営協議会
7月	第73回社会を明るくする運動キャンペーン 青少年の非行・被害防止全国強調月間
8月	青少年育成団体情報交換会 (大雨被害の影響で中止) 特別巡回(土崎港曳山まつり、セリオン花火大会) 特別巡回(竿燈まつり、雄物川花火大会)
10月	第1回地区少年指導委員会代表者会議
11月	少年指導委員研修会
12月	子供・若者育成支援推進強調月間キャンペーン 特別巡回(年末)
1月	第2回地区少年指導委員会代表者会議
2月	第2回少年指導センター運営協議会
通年	広報紙「わかくさ」発行 定例巡回 地区巡回 わかくさ相談電話

わかくさネット配信中!



検索

秋田市少年指導センター

少年指導センターのホームページでも読むことができます。

少年相談受理状況

12月末現在の相談件数は36件で例年に比べ大幅に多くなっています。そのほとんどは、昨年12月から継続している有職青年からの生活面での相談となつています。その他の相談では、中学生が1件、高校生が3件で、相談内容としては、祖母からのお孫さんについての相談と母親からの娘さんとの関係についての相談でした。

「わかくさ相談電話」
電話018(884)3868



編集後記

7月の大雨による水害は思いも寄らない広範囲に及び、普通の生活を大きく変えられた家庭が数多くありました。その後の「熊騒動」も子どもたちの安全安心を願う私たちにとって、予想もつかない出来事だったと感じています。日々の見守りが子どもたちとのつながりになるようにと願っています。

わかくさ第20号発行に当たり、ご協力いただいた皆様に心より感謝いたします。

広報部員一同